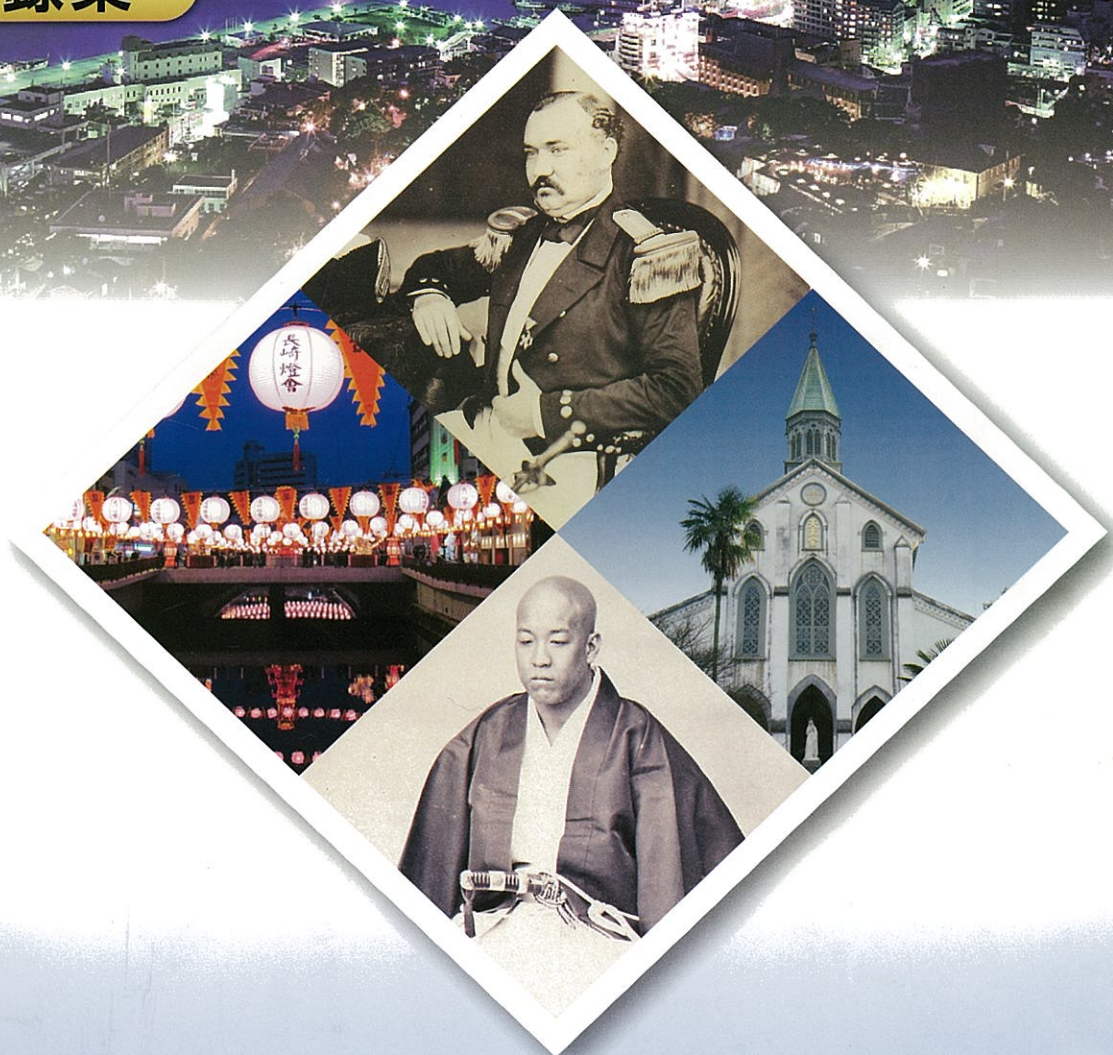


平成27年度 大学病院情報マネジメント部門 連絡会議

抄録集



大学病院情報マネジメントに多職種連携の花を咲かそう
～そこから始まる地域連携の推進と発展を目指して～

- ◆会期 平成28年1月27日(水)～29日(金)
- ◆会場 ホテルニュー長崎 (長崎県長崎市)
- ◆大会長 本多 正幸 (長崎大学病院 医療情報部長)
- ◆後援 一般社団法人 長崎国際観光コンベンション協会

ご挨拶

平成 27 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議

大会長 本多 正幸

(長崎大学病院 医療情報部長)

この度、平成 28 年 1 月 27 日(水)、28 日(木)、29 日(金)の 3 日間にわたり、長崎市のホテルニュー長崎を会場として、平成 27 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議を開催するに当たり、ご発表いただく皆様から抄録をご提出いただき、誠にありがとうございました。

本抄録集は、ほぼすべての演者からの抄録が収載されており、ご発表いただく方々はもちろん、ご参加されるすべての方々にとっても貴重な資料となるものと期待しております。本抄録集を有効にご活用され、本会議での自由闊達な意見交換のための資料とされますこと祈念いたします。

本会議は、国立大学病院のみならず、公立・私立大学病院等のマネジメント部門に関するあらゆる職種の方が一堂に会し、医療の質、医療の安全性、医療経営、業務の効率化について議論を交わすことができる、貴重な機会であり、長年にわたって病院情報マネジメント部門の管理・運営に多大な貢献をしてきたものです。また、病院の職員のみならず、関係する情報関連企業の方々にとっても有益な機会となってきたものと思います。

平成 27 年度の本会議は、「大学病院情報マネジメントに多職種連携の花を咲かそう ～そこから始まる地域連携の推進と発展を目指して～」をテーマとして、本会議を企画いたしました。超高齢化社会、人口減少社会を迎えようとしている我が国において、大学病院の位置づけが注目されてきています。政府が掲げる政策の一つに IT 化技術の活用があり、その一環として大学病院情報マネジメントの重要性がますます増加してきています。

また、ビッグデータの時代にあって、患者情報の 2 次活用への期待、人材育成の必要性が叫ばれる中、病院が一丸となって、地域医療連携の推進、医療と介護の連携、在宅医療・在宅介護の充実等の諸問題に対処していかなければなりません。このような状況にあって、本会議では病院情報システム、薬剤部門、検査部門、放射線部門、看護部門、事務部門、診療情報部門、臨床研究部門および部長会セッションをはじめ、UMIN 関係の各種委員会を予定しています。また、病院全体の基盤に関するテーマに焦点を絞り、情報交換のセッションも企画しています。

今回の会場である、ホテルニュー長崎は JR 長崎駅およびバスセンターに隣接し、アクセスはとても便利な場所にあります。7 月には、「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産登録に登録され、長崎には端島(軍艦島)や旧グラバー住宅など 8 つの構成資産が点在しております。多くの方々にこの長崎の地にお運びいただき、本会議をご支援いただくとともに、長崎の文化をご堪能いただければ幸甚に存じます。長崎大学病院の各部門からの多大なご協力のもと、ご参加される皆様にとって有意義な情報交換の場となるよう全力で進めて参りますので、よろしくご厚意申し上げます。

平成 28 年 1 月吉日

日程表

1月27日(水)

	8	30	9	30	10	30	11	30	12	30	13	30	14	30	15	30	16	30	17	30	18	30	19	30	20	30	21
海風の間 (地下1階)																	幹事会 15:00-16:00	部長会 16:00-18:00									
ガーデンテラス 長崎																											部長懇親会 19:00-21:00

1月28日(木)

	8	30	9	30	10	30	11	30	12	30	13	30	14	30	15	30	16	30	17	30	18	30	19	30	20	30	21				
A-1会場 鳳凰閣東中 (3階)			開 会 式		A1-1 病院情報システム 9:00-10:30		A1-2 看護 10:35-12:05		ランチョンセミナー1 日本電気 12:20-13:20		A1-3 病院マネジメント(事務) 13:35-15:35															全体懇親会 18:15-20:15					
A-2会場 鳳凰閣西 (3階)				A2-1 診療情報管理 9:00-10:30		A2-2 部長会 10:35-12:05		ランチョンセミナー2 富士ゼロックス 12:20-13:20		A2-3 情報交換会A 13:35-15:05		A2-4 情報交換会B 15:10-16:40																			
B会場 丹頂の間 (3階)				B-1 臨床研究・治験 9:00-10:30		B-2 放射線(医用画像) 10:35-12:05		ランチョンセミナー3 富士フイルム メディカル 12:20-13:20		B-3 地域連携 13:35-15:05		B-4 薬剤 15:10-16:40		スイーツセミナー GEヘルスケア・ ジヤパン 16:55-17:55																	
C会場 真珠の間 (3階)				UMIN 小委員会 事務 9:00-10:00		UMIN 小委員会 薬剤 10:05-11:05		診療情報 管理士 連絡会 11:10-12:10		ランチョンセミナー4 フォーティネット ジャパン 12:20-13:20		C-1 検査 13:35-15:05		C-2 歯科 15:10-16:40		UMIN 協議会 幹事会 16:45-17:45															
PA会場 龍宮の間 PB会場 珊瑚の間南 PC会場 海風の間 (地下1階)				ポスター掲示												立会 (奇数) 16:45- 17:25	立会 (偶数) 17:25- 18:05														
展示ルーム 菊の間 (3階)				展示ルーム「富士通」																											
展示ルーム 梅の間 (3階)				展示ルーム「トレンドマイクロ」																											
展示ルーム 真珠の間 (3階)				展示ルーム「日本電気」																											
企業展示会場 珊瑚の間北 中・ホワイエ (地下1階)				企業展示																											

1月29日(金)

	8	30	9	30	10	30	11	30	12	30	13	30	14	30	15	30	16	30	17	30	18	30	19	30	20	30	21				
A会場 鳳凰閣 (3階)				基調講演 9:00-10:00		総会・閉会式 10:05-11:30		UMIN 協議会 総会 11:30- 12:00																							
真珠の間 (3階)																											運営委員会 12:00-13:00				
PA会場 龍宮の間 PB会場 珊瑚の間南 PC会場 海風の間 (地下1階)				ポスター掲示																											
展示ルーム 菊の間 (3階)				展示ルーム「富士通」																											
展示ルーム 梅の間 (3階)				展示ルーム「トレンドマイクロ」																											
展示ルーム 真珠の間 (3階)				展示ルーム「日本電気」																											
企業展示会場 珊瑚の間北 中・ホワイエ (地下1階)				企業展示																											

プログラム

本大会は、機械系分野の最新の研究成果を報告し、相互に交流を深め、今後の研究開発の方向性を検討する重要な機会を提供する。本大会の開催は、機械系分野の発展に大きく貢献するものと期待される。

本大会のプログラムは、以下の通りである。

1. 開会式
 2. 講演
 3. 懇話会
 4. 閉会式

講演は、以下の通りである。

講演1: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 講演2: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 講演3: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 講演4: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 講演5: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 講演6: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 講演7: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 講演8: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 講演9: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 講演10: 機械系分野の最新の研究成果の報告

懇話会は、以下の通りである。

懇話会1: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 懇話会2: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 懇話会3: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 懇話会4: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 懇話会5: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 懇話会6: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 懇話会7: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 懇話会8: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 懇話会9: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 懇話会10: 機械系分野の最新の研究成果の報告

閉会式は、以下の通りである。

閉会式1: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 閉会式2: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 閉会式3: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 閉会式4: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 閉会式5: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 閉会式6: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 閉会式7: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 閉会式8: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 閉会式9: 機械系分野の最新の研究成果の報告
 閉会式10: 機械系分野の最新の研究成果の報告

開会式

日 時：平成 28 年 1 月 28 日（木） 8：45～9：00

会 場：A-1 会場（3 階 鳳凰閣東中）

基調講演

大学病院マネジメントの現状と課題

日 時：平成 28 年 1 月 29 日（金） 9：00～10：00

会 場：A 会場（3 階 鳳凰閣）

座 長：鳥居 時政（長崎大学病院 事務部）

講 師：手島 英雄（文部科学省 高等教育局 医学教育課 大学病院支援室長）

セッション

1 病院マネジメント（事務）

ピンチをチャンスに！いま試される事務のマネジメント力
～事務職員から発信する経営改善～

日 時：平成 28 年 1 月 28 日（木） 13：35～15：35

会 場：A-1 会場（3 階 鳳凰閣東中）

座 長：鳥居 時政（長崎大学病院 事務部）

診療報酬の改定、消費増税に伴う損税の増への対応など医療を取り巻く環境が大きく変化する中、それぞれの大学病院において、経営の改善に向けた様々な取組みがなされているところである。

そこで、今回の事務セッションでは、“事務職員発の経営改善”に焦点を当て、事務（職員）が何をすべきか、何をどう発信していくのか、事務部という組織の力、組織を構成する個の力をどう病院のために活かすのかというテーマでディスカッションする。経営改善に向けた各大学病院におけるポイントと、それに対する事務の取組事例について報告いただき、大学病院が目指し、力を注ぐべき重点項目を探る場としたい。

1. 経営改善を進めるための必要な要素とは何か

～三重大学病院の「経営 PDCA サイクル」～

一丸 直人（三重大学医学部附属病院）

2. 多職種協働による経営改革に向けた取り組み

～ピンチをチャンスに！経営改革運動本部立ち上げの経緯と成果～

川村 篤（東京大学医学部附属病院）

3. 病院事務職員の独自採用と採用後のキャリアパス

井本 憲（京都大学医学部附属病院）

4. レセプトの院内点検における完全ペーパーレス化の取組について

廣田 映二（大阪大学歯学部附属病院）

2 病院情報システム

総合病院情報システムの進歩

～病院情報システムの現状評価と将来の方向性～

日 時：平成 28 年 1 月 28 日（木） 9：00～10：30

会 場：A-1 会場（3 階 鳳凰閣東中）

コーディネーター兼座長：本多 正幸（長崎大学病院 医療情報部）

コーディネーター兼座長：松本 武浩（長崎大学病院 医療情報部）

オーダーエントリーシステムが生まれて 40 年、電子カルテがスタートして 15 年、当初普及が疑問視されていた電子カルテも今や全大学病院が採用し、研修医から評価の高い研修指定病院のほとんどが電子カルテである。

この間、機能の進歩はめざましいが、検査や生理検査、放射線検査等のオーダーに関しては機能が整理されベンダー間にほとんど差はなくなってきた一方で、処方、注射、処置、入院一般指示や指示受け機能等ベンダー毎に一長一短が明らかな機能も多く残っており必要な機能不足によりいまだに紙運用併用を余儀なくされているケースも散見される。ベンダーを選んだ時点で 5 年ないし 6 年は変更できない以上、機能不足があれば各病院にとって大きな損失につながる。

本セッションでは 4 大ベンダーの病院情報システムを採用している病院からそれぞれのシステムの先進的な部分をご紹介いただき、その価値を評価する中で、病院職員の皆様には病院情報システムの可能性と発展性を知っていただき、将来の方向性を議論する場として本セッションを企画するものである。

1. テンプレートサービス・共有データベース機能を用いた有効なデータ活用の試みと電子カルテの新機能

三原 直樹（大阪大学医学部附属病院 医療情報部）

2. 熊本大学医学部附属病院における診療情報電子化の経緯と今後目指したいもの

宇宿 功市郎（熊本大学医学部附属病院 医療情報経営企画部）

3. 臨床研究を支援するデータベースとネットワーク

鈴木 隆弘（千葉大学医学部附属病院 企画情報部）

4. 九州大学病院の病院情報システムにおける機能強化

中島 直樹（九州大学病院 メディカルインフォメーションセンター）

3 部長会

国立大学病院遠隔バックアッププロジェクト（THE GEMINI PROJECT）におけるバックアップデータ（SS-MIX2）の平時における活用

日 時：平成 28 年 1 月 28 日（木） 10：35～12：05

会 場：A-2 会場（3 階 鳳凰閣西）

座 長：石原 謙（愛媛大学医学部附属病院 医療情報部）

コーディネーター兼座長：本多 正幸（長崎大学病院 医療情報部）

昨年の部長会セッションでは、国立大学病院の災害時復旧のためのリモートバックアップシステム（全国国立大学病院診療情報バックアップ事業（The Gemini Project））に関する災害時における運用とその諸問題が議論された。本年は、病院長会議常置委員会からの本部長会への依頼「災害対策のための医療情報バックアップ事業におけるデータセンター保管データの平時利用に関するルール案の検討について」を受け、バックアップデータであるSS-MIX2の平時における活用に関する問題を議論したい。特に、現在九州市区における国立大学病院のバックアップデータを活用して、災害時における医療資源の需要の状況を予測しようとする研究が進められてきている。ここでは、佐賀大学を研究の中核とした「震災時医療資源需要予測協議会」で検討されてきている内容をご紹介いただき、今後の本課題に関する進め方や解決すべき問題などを検討する場としたい。

1. SS-MIX2 をベースにした統合解析を可能とする多施設医療情報共有化基盤の構築と利活用に向けた課題

～九州地区の七国立大学病院による震災時医療資源需要予測協議会での取り組み～

藤井 進（佐賀大学医学部附属病院 医療情報部）

2. The Gemini Project で保管されるデータの二次利用ルール案について（報告）

大江 和彦（東京大学医学部附属病院 企画情報運営部）

4 診療情報管理

チーム医療における診療記録のあり方

～情報共有のための診療記録の質向上に向けて～

日 時：平成 28 年 1 月 28 日（木） 9：00～10：30

会 場：A-2 会場（3 階 鳳凰閣西）

コーディネーター兼座長：野村 俊子（大分大学医学部附属病院 医事課）

座 長：廣瀬 弥幸（長崎大学病院 総合患者支援部）

院内における多職種連携によるチーム医療の中で、診療情報の共有は必須であり、それを担うのが電子カルテなど診療記録になると考えています。

また、スムーズな連携を行うためには、治療経過の共有をはじめ、治療方針決定のプロセスや治療経過に伴う患者同意の取得状況について、診療記録から読み取れることが必要であると感じています。

このことは、特定機能病院に行われた「集中立入検査」や平成 27 年 10 月 1 日施行の「医療事故調査制度」においても、診療記録が重要な役割として求められております。

そこで、多職種連携によるチーム医療を推進することができる診療記録として、どのような要件が必要で、その質を向上させるために何をすべきなのかについて、各施設から事例を発表いただき、診療情報管理部門としての診療記録への取り組み方を改めて考えたいと思います。

1. 診療記録の質とチーム医療

廣瀬 弥幸（長崎大学病院 総合患者支援部）

2. インフォームドコンセントの記載改善を通じて医療安全管理部門との取り組み

～診療情報管理士の立場から～

井上 麻里子（福井大学医学部附属病院 診療情報管理部）

3. 「電子カルテ」時代の診療情報管理士の役割

～医療の質の向上と経営改善を目指した活動～

佐藤 真子（筑波大学附属病院 医療情報経営戦略部）

4. システムによる監査支援の要件

～多職種が関わる診療記録の監査～

藤井 歩美（大阪大学医学部附属病院 医療情報部）

5 看護

生活をつなぐ、看護をつなぐ

～高度急性期病院の看護職に求められるスキル～

日 時：平成 28 年 1 月 28 日（木） 10：35～12：05

会 場：A-1 会場（3 階 鳳凰閣東中）

コーディネーター兼座長：萩原 絹子（長崎大学病院 看護部）

座 長：西村 路子（滋賀医科大学医学部附属病院 看護部）

団塊の世代が75歳となる2025年を目前に控え、診療報酬改定でも医療機関の機能分化や強化、連携など在宅医療の充実を柱とする地域包括ケアの重要性が叫ばれている。このような中で、高度急性期病院に勤務する看護師は、患者に寄り添うライフサポーターとして何を目指し、何を成すべきかを考え実践していくことが喫緊の課題であると考えますが、地域看護の分野との緊密な連携により、隙間ない看護を実践していくことはもはや必要不可欠である。

本セッションでは、このような時代を迎え、地域の中核を担う大学病院の先駆的、戦略的な取り組みについてご紹介いただき、最新の情報や課題を共有するとともにこれからの看護について皆様と一緒に考えていきたい。

1. ベッドコントロール一覧表を用いた病床管理

穴尾 百合（滋賀医科大学医学部附属病院 看護部）

2. メディカルサポートセンター（MSC）の役割

～生活の場から、スムーズに入院するための体制～

大塚 みどり（長崎大学病院 看護部）

3. 訪問看護ステーションへのコンサルテーションから捉えた大学病院看護師の役割

～専門看護師の立場から～

小笠原 麻紀（高知大学医学部附属病院 看護部）

4. 鹿児島大学病院看護部の地域・社会貢献を目指した人材育成プログラム
～3年目地域施設見学研修とキャリアパス地域看護コースについて～

田畑 千穂子（鹿児島大学病院 看護部）

6 歯科

歯科病院の病院情報システムの現状と方向性、そして導入における課題

日 時：平成28年1月28日（木） 15：10～16：40

会 場：C会場（3階 真鶴の間）

コーディネーター兼座長：森本 徳明（矯正歯科 森本）

座 長：玉川 裕夫（大阪大学歯学部附属病院 医療情報室）

歯科は、個人の無床診療所がほとんどで、その医事会計システムとしてのレセコンは、開発されて40数年経過し、診療報酬請求に関する機能や、診療録を作成する機能については、各ベンダーが個々のユーザーの要望に応える形で、非常に進歩している。しかし、歯科の大学病院で最初のオーダーエントリーシステムが開発されて20数年が経過するが、大学病院の歯科には開発にあたる専門の部署もなく、また、個人の診療所と違うため、医科のシステムのように十分使いやすい形になったものが普及しているとは言いがたい。

このセッションでは、まず、厚生労働省の科学研究により、その現状を把握するために、歯科大学病院の現状について、システム導入に関してアンケートを行ったので、その報告を行う。続いて、歯学部附属病院のシステム導入の現状を、長崎大学および東京医科歯科大学の先生よりご報告をいただく。どちらの大学も医科と歯科のシステムベンダーが異なり、医科との連携、電子診療録としての運用の実例、紹介状機能など診療所との連携の可能性を含めたお話しをいただく予定としている。また、特定共同指導で医療情報システムに関する指導点があれば、それについても触れられればと考えています。最後に、歯科を併設する大学医学部附属病院で、歯科システムを導入したにも関わらず、紙媒体の削減と業務軽減を行えなかったことから、再導入に至らざるを得なかった経験をもとに、歯科関係者では気がつかない視点から、歯科システム構築の困難な点をお話しいただく予定です。

それにより、今後、歯科のシステムの開発や導入に関する課題を洗い出し、参加者や今後のシステム開発において、有用なセッションになるのではないかと考えます。

1. 歯科大学病院の電子診療録の導入状況

森本 徳明（矯正歯科 森本）

2. 医科・歯科の電子診療録システムの連携について

丸山 陽市（長崎大学病院 医療情報部 歯科分室）

3. 東京医科歯科大学歯学部附属病院の病院情報システムの現状と方向性、そして課題

大林 尚人（東京医科歯科大学歯学部附属病院 歯科医療情報センター）

4. 医科から見た歯科部門システム導入の注意点

～システムの形態を選択する以前の前提として～

荻谷 敬士（三重大学医学部附属病院 医学・病院事務部）

7 薬剤

チーム医療における医薬品適正使用を目的とした病院情報システムの利活用と
実際

日 時：平成 28 年 1 月 28 日（木） 15：10～16：40

会 場：B 会場（3 階 丹頂の間）

コーディネーター兼座長：佐々木 均（長崎大学病院 薬剤部）

座 長：齋藤 秀之（熊本大学医学部附属病院 薬剤部）

チーム医療の推進が求められる中、医薬品適正使用のために必要な情報を適切かつ正確に伝達し、医療の質の向上をはかる手段として、医療情報システムが担う役割は大きい。このセッションでは、さまざまな施設のチーム医療において薬剤師が医療情報システムを利活用している事例をご紹介いただく。各施設の実施状況の情報共有と医療情報システムの課題や今後システムに期待される仕様などに関して議論することがこのセッションの目的である。

1. 副作用自動監視システム AVS と病棟薬剤業務への活用

五十嵐 敏明（福井大学医学部附属病院 薬剤部）

2. 鳥取大学医学部附属病院における内服薬処方せんの記載方法標準化の実施と医療安全に向けた取り組みの評価

小川 勝弘（鳥取大学医学部附属病院 薬剤部）

3. 病院情報システムを利用した抗菌薬適正使用 ～抗菌薬届出制・許可制システム～

遠原 大地（熊本大学医学部附属病院 薬剤部）

4. 「あじさいネット」の利用における薬局薬剤師業務のステップアップと連携

宮崎 長一郎（一般社団法人長崎県薬剤師会）

5. 処方箋を利用した薬薬連携 ～処方箋への検査値表示～

横山 威一郎（千葉大学医学部附属病院 薬剤部）

8 放射線（医用画像）

放射線診療・医用画像管理における地域連携の明日

日 時：平成 28 年 1 月 28 日（木） 10：35～12：05

会 場：B 会場（3 階 丹頂の間）

コーディネーター：中田 朋子（長崎大学病院 医療技術部 放射線部門）

座 長：坂本 博（東北大学病院 診療技術部 放射線部門／メディカル IT センター）

座 長：島井 健一郎（徳島大学病院 病院情報センター）

医療を取り巻く社会環境と医療を支える情報技術の変化は著しい。病院完結型医療から地域完結型医療に移行して久しく、昨今では、地域包括ケアと称し、日常生活の場から、医療機関、そして、再び在宅へ、と、総合的な診療の継続性が重視されている。また、診療を支援するための各種検査機器の高度化と、情報インフラの整備に伴う情報化に伴い、多くの医療情報・医用画像データが発生し、適正に管理された上での医療の提供が求められている。

本セッションでは、はじめに、地域完結型医療・地域包括ケア時代において、国立大学病院の放射線部が関わる放射線診断領域、放射線治療領域、それぞれの地域医療連携、多施設連携の現状や課題を共有・議論する。続いて、放射線診療を主として増大し続けてきた医用画像データの管理、また、静止画・動画等の医用画像データや文書ファイルデータなどの非構造化データを総括して蓄積・管理するスケールアウトを前提とした統合ストレージの現況の共有、ならびに、今後の展望について議論する。

I. 放射線診療（診断・治療）の地域連携

1. 地域医療連携の現状と課題（診断領域）～医療資源の効率的な共同利用～

池田 龍二（熊本大学医学部附属病院

医療技術部 診療放射線技術部門）

2. 放射線治療計画の多施設連携システムについて

川内野 友彦（長崎大学病院 医療技術部 放射線部門）

II. 医用画像情報の管理

1. PACS 画像の外部保存の現況と今後の展開・方針について

村上 徹（神戸大学医学部附属病院 医療技術部 放射線部門）

2. VNA 実現に向けた統合ストレージ・仮想環境下での医用画像情報システム（PACS）の導入 ～PACS 更新及びベンダーチェンジの経験から～

三原 直樹（大阪大学医学部附属病院 医療情報部）

3. 統合ストレージの稼働状況と今後の展開・方針

木村 映善（愛媛大学医学部附属病院 医療情報部）

9 検査

地域連携における臨床検査データの活用に向けて

日 時：平成 28 年 1 月 28 日（木） 13：35～15：05

会 場：C 会場（3 階 真鶴の間）

座 長：柳原 克紀（長崎大学病院 検査部）

コーディネーター兼座長：南 惣一郎（長崎大学病院 検査部）

地域医療においては医療機関間の連携強化が重要であり高品質な医療提供のために診療情報の共有が必要とされ様々な診療情報が共有される中、臨床検査データはその客観性から最も貴重な診療情報と位置づけられています。

今回のセッションでは、検査データの活用するにあたり検査データを解釈するために必要な

基準範囲の共有化について、また実際に地域連携において検査データを活用されている施設の現状、最後にこれからの地域医療における検査データ活用方法やについて発表して頂きます。

1. 臨床検査項目分類コード

～JLAC10 から JLAC11 へ～

堀田 多恵子（九州大学病院 検査部）

2. 診療所におけるあじさいネットの使用について

～地域連携における価値とその活用法～

奥平 定之（奥平外科医院）

3. 自治体の支援による造血幹細胞保存センターの設置について

東谷 孝徳（佐賀大学病院 検査部）

4. 地域医療での臨床検査データの共有化

～長崎大学病院の取り組み～

宇野 直輝（長崎大学病院 検査部）

10 地域連携

地域包括ケアシステムを見据えた多職種間の情報連携とは？

日 時：平成 28 年 1 月 28 日（木） 13：35～15：05

会 場：B 会場（3 階 丹頂の間）

コーディネーター兼座長：川崎 浩二（長崎大学病院 総合患者支援部 地域医療連携センター）

座 長：鈴木 一郎（新潟大学医歯学総合病院 地域保健医療推進部）

地域医療構想ならびに地域包括ケアシステムの推進により、急性期病院においても在宅復帰を視野に入れた早期リハビリ、栄養管理等が重要視されるとともに、患者をできるだけ本来の地域生活者に戻すため、「生活支援」に重点をおいた情報の収集・提供・共有が必須となっている。

本セッションでは、「地域包括ケアシステム」に焦点をあて、その現状を把握するとともに、多職種間の情報共有はどうあるべきか？どのような情報が足りないのか？誰がもっと参画すべきなのか？病院はどのように関わるべきか等々についてディスカッションしたい。

1. 長崎市における地域包括ケアシステムの構築

藤井 卓（長崎市医師会）

2. 大学病院として「地域包括ケア」にどう関われば良いのか？

小林 利彦（浜松医科大学医学部附属病院 医療福祉支援センター）

3. 地域包括ケア時代 生活を途切れさせない多職種連携マネジメント

櫃本 真事（日本医師会総合政策研究所・（元）愛媛大学医学部
附属病院 総合診療サポートセンター）

11 臨床研究・治験

臨床研究・治験における IT システムの構築と活用

日 時：平成 28 年 1 月 28 日（木） 9：00～10：30

会 場：B 会場（3 階 丹頂の間）

コーディネーター兼座長：松村 泰志（大阪大学大学院 医学系研究科 医療情報学）

座 長：山本 弘史（長崎大学病院 臨床研究センター）

臨床研究・治験における IT の活用は、臨床研究・治験の効率化・迅速化、および円滑な実施には必要不可欠である。臨床研究・治験活性化 5 か年計画 2012（平成 24 年 3 月 30 日、文部科学省・厚生労働省）でも、日本の目指すべき方向性が示されており、課題の 1 つとして「IT 技術の更なる活用等」が挙げられている。短期的に目指す項目として、治験審査資料の電子化による治験審査の効率化、EDC の利用の促進、リモート SDV 実施が、さらに、中・長期的に目指す項目として、病院情報システムと EDC の連動や医療情報データベースの活用などが掲げられている。臨床研究・治験の推進は大学病院の使命のひとつであり、臨床研究中核拠点病院だけでなく、各施設が目指すべき方向性であることは間違いない。

本セッションでは、これらを積極的に推進している施設から、先進的な取組事例について紹介していただき、最新の情報および現状の課題を共有することで、更なる臨床研究・治験における IT 活用の今後について皆様と一緒に考えたい。

1. 患者数調査のためのデータベースの構築

武田 理宏（大阪大学大学院 医学系研究科 医療情報学）

2. 電子カルテから EDC への連携に向けて

横井 英人（香川大学医学部附属病院 医療情報部・臨床研究
支援センター）

3. REDCap を利用するまで

～越えるべきハードル～

佐藤 俊太郎（長崎大学病院 臨床研究センター）

4. リモート SDV の取り組み

橋本 あきら（北海道大学病院 臨床研究開発センター）

12 情報交換会 A

情報セキュリティと仮想化システム

日 時：平成 28 年 1 月 28 日（木） 13：35～15：05

会 場：A-2 会場（3 階 鳳凰閣西）

コーディネーター：本多 正幸（長崎大学病院 医療情報部）

座長：遠藤 晃（北海道大学病院 医療情報企画部）

座長：島井 健一郎（徳島大学病院 病院情報センター）

3. HIS データ

数年前までは、HIS ベンダーごとに開催し、各ベンダーのユーザ校における情報交換という意味合いで実施されてきた。近年、共通のテーマを設定し、各テーマに関して専門家及び最先端で取り組んでいるユーザ等の発表が行われてきている。長崎大会では、近年の流れを踏襲し、以下のテーマで企画した。

この2つのセッションのポリシーは、各部門に偏らない共通の基盤テーマあるいはそれに近い内容を取り上げ、啓発的な内容の発表とともに、各大学における事例、問題、先進的取組などを紹介いただき、各大学での検討および参考材料となることを期待した。

年金機構への標的型攻撃による情報漏洩や、マイナンバー法施行、個人情報保護法改正等により情報セキュリティの意識がこれまで以上に国民の間に高まってきている。また、大学病院では基盤システムとして仮想化技術を導入する病院が増加してきており、仮想化システムが情報セキュリティに対し、運用を含めどのように貢献し、新たな問題はどこにあるのかなどが新しい問題として提議されてきている。そこで、本セッションでは、現時点におけるホットな話題に焦点を絞り、大学病院が将来に向けてどのような意識を持ち、どのような具体的対策が必要かについて情報交換を行いたい。

1. 医療業界の目線で改正個人情報保護法を考える（情報セキュリティコンサルタントからの啓発的な講演）

小田部 昭（株式会社ビジネスブレイン太田昭和（BBS）情報セキュリティ研究所）

マイナンバー法が施行され、医療情報との紐付けなど、医療 ID などを巻き込んだ議論が始まりだしている。また改正個人情報保護法も国会で成立し、2年後には施行されようとしている。本講演では、医療業界にも大きな影響をおよぼすと思われる、改正個人情報保護法にフォーカスして解説する。現状の個人情報保護法において既に抱えている問題が先送りされている状況で、改正個人情報保護法が成立した。現状抱える問題と、2年後の改正個人情報保護法で発生する新たな問題に対して、今後、何を議論し、何を解決していかなければならないのかをお話しし、啓発的な基調講演としたい。時間が許せば、マイナンバー法と医療 ID の話題にも触れさせていただく。

2. 標的型メール攻撃実演デモンストレーション

橋本 英利（グローバルセキュリティエキスパート株式会社
事業開発部 マーケティング室）

もはや広域型攻撃とでも形容すべき標的型攻撃・・・なかでも標的型メール攻撃は、特定の企業や組織をターゲットにして知的資産の窃取を目的とし、1通のメールがそのきっかけになると言われている。誰もが疑いなく URL をクリックしてしまう巧妙なフィッシングメールや、業務に関連しているように見せかけた添付ファイルの送付など、メールを使った攻撃手法は日々悪質に進化し続けており、すでに多くの組織で標的型攻撃を可能にする

マルウェアに感染している（あるいは感染に気づいていない）のが実情である。本セッションでは、情報セキュリティ専門会社による視点から、メールによってマルウェアに感染する仕組み、そこからいとも簡単にパソコンが乗っ取られ外部通信が可能になるまでの様子をデモンストレーション形式で紹介する。

3. 仮想環境におけるセキュリティ対策

山下 芳範（福井大学 医療情報部）

仮想化システムにおける情報セキュリティ対策と運用に関して、先行病院の一つである福井大学における状況と今後の展開について、発表いただく。

13 情報交換会 B

患者情報の2次活用（DWH）と患者匿名化

日 時：平成28年1月28日（木） 15：10～16：40

会 場：A-2会場（3階 鳳凰閣西）

コーディネーター：本多 正幸（長崎大学病院 医療情報部）

座 長：紀ノ定 保臣（岐阜大学 医療情報部）

座 長：山崎 友義（宮崎大学 医療情報部）

病院情報システムの社会貢献の一つが、患者情報の2次活用であり、各大学病院での実績も成果を挙げてきている。本セッションでは、代表的なDWHや情報活用で実績を挙げている病院に、構築・運用の実績と患者匿名化の実際と基本方針について報告をお願いする。また、匿名化手法を研究している愛媛大学、木村映善先生に、啓発的な話を伺う。

木村先生のご意見は、次の通りである。

「私は基本的に院内利用では適切なセキュリティ・ポリシーと運用環境があれば、匿名化にまで踏み込む必要はないと考えています。匿名化が必要なのは、対外的にデータを開示、あるいは各大学と共同研究でデータをもちよる必要があるケースです。ですが、大学内関係者の学内・研究利用でさえ、「匿名化してデータ提供」としているところもあります。ただ、この場合は、患者IDや名前を抜いた状態のことを「匿名化」と称しているだけのものもあります。「匿名化」についてしっかりした理解のもとマネジメントが行われているのでしょうか？」

各大学病院の事例報告では、患者情報の活用について、DWHを含めた活用の概要について紹介いただき、運用におけるノウハウ、あるいは問題点について述べていただく。さらに、外部への情報持ち出しの際の患者匿名化について、その対策や方針、今後の方向性を含めてどのように進めるべきか等についてご発表いただく。最後に、本課題について総合討論により、問題を深か掘りできれば幸いである。

1. 「データ匿名化手法」の翻訳・監訳の動機

木村 映善（愛媛大学医学部附属病院 医療情報部）

2. 診療データの二次活用の課題と解決

～阪大病院の事例～

松村 泰志 (大阪大学大学院 医学系研究科 医療情報学)

3. HIS データ 2 次利用のための DWH

～高知大学の事例～

奥原 義保 (高知大学医学部附属医学情報センター)

4. 診療情報の二次利用のための環境整備と課題

～山口大学の事例～

石田 博 (山口大学大学院 医学系研究科)

総会・閉会式

日 時：平成 28 年 1 月 29 日 (金) 10:05～11:30

会 場：A 会場 (3 階 鳳凰閣)

ランチョンセミナー

ランチョンセミナー 1

日本電気株式会社

長崎大学病院における生産性向上を目指した情報化とマネジメントの取組み

～メディカルサポートセンター設置と効果的なインシデントレポート管理～

日 時：平成 28 年 1 月 28 日 (木) 12:20～13:20

会 場：A-1 会場 (3 階 鳳凰閣東中)

座 長：福間 衡治 (日本電気株式会社)

演 者：松本 武浩 (長崎大学病院)

DPC 導入が契機となり急性期病院の在院日数は減少傾向が加速し、従来最も長いとされた特定機能病院群においても在院日数は年々減少している。その結果、入退院数は増加し入院業務負担が年々増している。長崎大学病院では 2008 年の新病院開院と電子カルテ導入のタイミングで総合病院情報システムの効果を高めるべく、最も利用機会の多い注射、処方オーダの改良に加え、業務の集中化と業務シフトおよび業務の前倒しによる業務生産性向上を目指したメディカルサポートセンターの設置、クリニカルパスの積極利用に取り組んできた。一方、医療過誤は生産性向上に対する負の要因であるが、医療安全への直接効果を狙ったインシデントレポート管理システムを開発し重篤なインシデントを減らすべく取り組んでいる。本院の取組みについて報告する。

ランチョンセミナー 2

富士ゼロックス株式会社

DACS に基づく情報共有

～システム間データ共有・他施設との文書共有～

日 時：平成 28 年 1 月 28 日（木） 12：20～13：20

会 場：A-2 会場（3 階 鳳凰閣西）

座 長：佐藤 肇（富士ゼロックス株式会社）

演 者：松村 泰志（大阪大学大学院）

マルチベンダー構成の電子カルテであっても、文書統合管理（DACS）により PDF 化した文書を統合的に閲覧できる。文書を収集する際に、文書プロファイル情報を XML に記録するが、患者 ID 等の管理上の必要データに加え、文書内の医学的に重要なデータ（例：病理診断名）を書き込み、データ共有 DB に保存することで、他システムからのデータ引用を可能としている。DACS を地域連携システムと連携させることで、他施設から文書の閲覧が可能となる。この方法で、事実上、全診療記録が閲覧可能となるが、主治医は、閲覧させる文書を指定し、閲覧させる施設を選択することで、適切に情報開示を制御する。これらの情報共有の仕組みについて紹介する。

ランチョンセミナー 3

富士フィルムメディカル株式会社

長崎県離島救急医療支援システムの実績と地域医療連携への期待

～脳神経外科医の立場から見た離島救急医療の最前線～

日 時：平成 28 年 1 月 28 日（木） 12：20～13：20

会 場：B 会場（3 階 丹頂の間）

演 者：日宇 健（独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター）

長崎県離島救急医療支援システムは、2013 年に稼働以来長崎県の離島医療を ICT で強力にサポートしてきています。本ランチョンセミナーでは、NHO 長崎医療センター脳神経外科の日宇健先生に、実際の離島医療の最前線からこの長崎県離島救急医療支援システムの脳卒中に関する実績や効果をお話し頂きます。また、これからの同システムへのご期待や、ご要望等、現場のお声をお話し頂けると思います。国内でも先進的な長崎県の離島医療を全国の離島医療にとどまらず、地域医療への先進事例としてご紹介します。

ランチョンセミナー 4

フォーティネットジャパン株式会社

医療情報をサイバー攻撃から守るネットワーク

～入口／内部／出口対策と無線 LAN の考え方～

日 時：平成 28 年 1 月 28 日（木） 12：20～13：20

会 場：C 会場（3 階 真鶴の間）

演 者：山田 麻紀子（フォーティネットジャパン株式会社）

ブラックマーケットでクレジットカードの 20 倍の価格で取引されていると言われている医療情報は、いまもっとも狙われている個人情報です。医療系ネットワークをインターネットから

隔離しただけでは、マルウェアの侵入や感染拡大を封じ込めることはできません。最新の脅威の侵入に備えて、医療情報ネットワークにも入口／内部／出口対策が必要です。フォーティネットがご提案する多層防御から次世代型セキュリティ無線 LAN まで一挙にご紹介いたします。

スイーツセミナー

GE ヘルスケア・ジャパン株式会社

標準化通信から VN (Vender Neutral), そして VN から開く将来像

日 時：平成 28 年 1 月 28 日 (木) 16:55~17:55

会 場：B 会場 (3 階 丹頂の間)

進 行：松葉 香子 (GE ヘルスケア・ジャパン株式会社)

演 者：近藤 博史 (鳥取大学医学部附属病院・鳥取大学総合メディア基盤センター)

鳥取大学医学部附属病院では 2008 年電子カルテ基盤に仮想化基盤を導入し、その効率性、安全性、高速性から医療連携の基盤に使用している。また、省力化したオンライン名寄せ、SS-MIX2 と海外で稼働する世界標準 IHE-XDS の連携、DICOM 画像連携の世界標準 XDS-I 導入、集中保存が特徴である。クラウド技術の意義、通信の標準化から VN、集中保存がもたらす EHR・診断支援・2 次利用の将来像をあじさいネットの地で議論する。

各種委員会

医療情報部長会・幹事会

平成 28 年 1 月 27 日 (水) 15:00~18:00 地下 1 階 海風の間

診療情報管理士連絡会

平成 28 年 1 月 28 日 (木) 11:10~12:10 C 会場 3 階 真鶴の間

UMIN 協議会幹事会

平成 28 年 1 月 28 日 (木) 16:45~17:45 C 会場 3 階 真鶴の間

UMIN 小委員会 (事務)

平成 28 年 1 月 28 日 (木) 9:00~10:00 C 会場 3 階 真鶴の間

UMIN 小委員会 (薬剤)

平成 28 年 1 月 28 日 (木) 10:05~11:05 C 会場 3 階 真鶴の間

UMIN 協議会総会

平成 28 年 1 月 29 日 (金) 11:30~12:00 A 会場 3 階 鳳凰閣

運営委員会

平成 28 年 1 月 29 日 (金) 12:00~13:00 3 階 真珠の間

ポスター発表

日時：1月28日（木） 9：00～18：05

1月29日（金） 9：00～11：30

立会い：1月28日（木） 16：45～18：05（奇数：16：45～17：25、偶数：17：25～18：05）

（ポスター発表者は立ち会い時間中、ポスターの前に待機をお願いいたします）

会場：PA会場（地下1階・龍宮の間）

PB会場（地下1階・珊瑚の間南）

PC会場（地下1階・海鳳の間）

1 病院マネジメント（事務）

PC1-01 院内広報紙が病院経営に与える影響

～若手職員の手で発信する経営改善～

長崎 由佳利（北海道大学病院 経営企画課）

PC1-02 経営戦略企画室の取組み

佐々木 香織（秋田大学医学部附属病院 企画管理課）

PC1-03 ベストプラクティス顕彰による医療の質向上と経費削減の二兎を追う試み

～筑波大学附属病院の職員のモチベーション向上と経費削減の活動について～

渡邊 一義（筑波大学附属病院 総務部 総務課）

PC1-04 『経営レポート』を通じた情報発信！

～全職員で経営改善を考える～

高橋 勇輝（群馬大学医学部附属病院 経営企画課）

PC1-05 経営改善に向けた千葉大学医学部附属病院の収支面での取組みについて

今井 亮介（千葉大学医学部附属病院）

PC1-06 病院長企画室における経営改善への取組み

安藤 和忠（千葉大学医学部附属病院 病院長企画室 企画情報部）

PC1-07 地域医師会とのネットワーク作りに向けた連携計画について

～地域の医療機関からの紹介患者増に向けて～

野口 真弓（東京大学医学部附属病院 事務部 医事課）

PC1-08 東大病院ホームページからのWEBによる予約確認システムについて

東口 倫子（東京大学医学部附属病院 事務部 医事課）

PC1-09 HOMAS2の導入に向けた取組み

川村 篤（東京大学医学部附属病院 事務部 経営戦略課）

PC1-10 多職種協働による経営改革に向けた取組み

～ピンチをチャンスに！経営改革運動本部立ち上げの経緯と成果～

末永 幸加（東京大学医学部附属病院 事務部 経営戦略課）

- PC1-11 国立大学附属病院におけるデータ分析・活用について
 ～経営分析システム A# の開発～
 櫻井 桂子 (東京大学医学部附属病院 国立大学病院データベースセンター)
- PC1-12 入院担当医への最新概算情報配信
 ～電子メールと院内 Web Site を使って～
 花立 久雄 (信州大学医学部附属病院)
- PC1-13 月次損益を活用した継続的・安定的な病院運営を目指す取組み
 安岡 浩憲 (福井大学病院部 経営企画課)
- PC1-14 経営改善を進めるための必要な要素とは何か
 ～三重大学病院の「経営P D C Aサイクル」～
 一丸 直人 (三重大学医学部附属病院 経営管理課)
- PC1-15 SUMS HOSPITAL 経営 net の開設
 (滋賀医科大学 病院管理課 経営企画室)
- PC1-16 手術時の医薬品請求における手術部スタッフの業務軽減と請求漏れ防止対策の
 試み
 本間 健太郎 (京都大学医学部附属病院 医務課)
- PC1-17 病院運営企画室における経営改善の取組み
 ～教員と事務職員協働で発信する経営改善～
 村野 博信 (京都大学医学部附属病院 経営管理課)
- PC1-18 勤務意欲向上のためのインセンティブ付与について
 ～病院長賞の創設に向けて～
 松川 香菜 (京都大学医学部附属病院 経営管理課)
- PC1-19 病院事務職員の独自採用と採用後のキャリアパス
 井本 憲 (京都大学 総務部人事課 医学・病院人事事務室)
- PC1-20 経営改善の取組み
 ～中央診療部門の収益把握～
 岸 秀和 (神戸大学 医学部事務部 病院経営企画課)
- PC1-21 双方向コミュニケーションによる社会との繋がりづくり
 ～鳥大病院「広報循環型」モデル～
 中原 由依子 (鳥取大学医学部附属病院 広報・企画戦略センター)
- PC1-22 多様化する病院経営への対応
 ～事務職員に求められる「マネジメント力」と「伝達力」～
 市川 貢資 (鳥取大学医学部附属病院 経営企画課)
- PC1-23 診療報酬未算定オーダの抽出と補正の試み
 大塚 千春 (鳥取大学医学部 医療サービス課)

- PC1-24 経営企画部門の強化に向けた取り組み
～事務組織の活性化・人財育成について～
井元 純（徳島大学病院 経営企画課）
- PC1-25 熊大病院における経営改善の取り組み
～ Evolution 《進化するために》～
古牧 康規（熊本大学医学部附属病院 事務部）
- PC1-26 PDCA サイクルの C に着目した経営戦略の策定と検証
～ DBC の ODAS、院内データの見える化と有効活用～
國吉 徹也（琉球大学医学部附属病院 医学部経営企画課）
- PC1-27 国立大学附属病院における決算資料から見る経営判断の指標等について
～これからの病院経営をサポートするために～
大塚 隆司（独立行政法人 国立大学財務・経営センター）
- PC1-28 “不満を改善につなげる”若手事務職員の提案
～第9回 国立大学附属病院若手職員勉強会 概要報告～
（平成27年度国立大学附属病院若手職員勉強会企画委員会）
- PC1-29 第6回国立大学附属病院係長クラス勉強会
～将来を見据えた病院係長となるために～
（平成27年度国立大学附属病院係長クラス勉強会企画委員会）
- PC1-30 HOMAS2 における BI ツールの活用について
（HOMAS2 活用プロジェクトチーム）

2 病院情報システム

- PA2-01 病院情報システムに関する個人情報管理について
～信大病院の現状と課題～
浜野 英明（信州大学医学部附属病院 医療情報部）
- PA2-02 医療情報データを活用した周術期医療の質向上を目指すチーム医療推進の取り組み
長瀬 清（岐阜大学医学部附属病院 手術部）
- PA2-03 自動車運転等に制限のある医薬品に対する服薬指導喚起の仕組み
十河 智昭（香川大学医学部附属病院 医療情報部）
- PA2-04 香川大学医学部附属病院における IT-BCP 対策
～国立大学病院診療情報バックアップシステムを用いた運用の検討～
赤堀 澄子（香川大学医学部附属病院 医療情報部）
- PA2-05 無線 LAN ネットワークの整備
中村 直毅（東北大学病院 メディカル IT センター）
- PA2-06 電子カルテとの連携を視野に入れたカンファレンス支援機能の構築
樫部 公一（山口大学医学部附属病院 医療情報部）

- PA2-07 電子カルテシステムの効果を最大限に引き出すための教育担当事務職員による運用・操作研修の取り組み
一橋 了介（長崎大学病院 医療情報部）
- PA2-08 トレンド成分を考慮した管理図法とその活用
河村 敏彦（島根大学医学部附属病院 医療情報部）
- PA2-09 『病院情報システムの利用者心得』を用いた一般ユーザ向け医療情報システム教育（HI-UP）プログラム
八幡 勝也（住田病院）
- PA2-10 FTTH と大規模な無線 LAN 環境を伴う病院情報ネットワークの構築
青木 高（群馬大学 昭和地区事務部 医事課）
- PA2-11 群馬大学医学部附属病院における情報システム更新
斎藤 勇一郎（群馬大学医学部附属病院 システム統合センター）
- PA2-12 患者アレルギー情報共有によるアレルギーインシデント回避の為のシステム改良例
村永 文学（鹿児島大学病院 医療情報部）
- PA2-13 身体情報の適切な管理に向けて
～体重計データ連携の試み～
沼田 光哉（北海道大学病院 医療情報企画部）
- PA2-14 地域連携に向けた商用医療機関データベースを利用した医療機関検索システムの構築
阿部 達也（北海道大学病院 医療情報企画部）
- PA2-15 九州大学病院における SS-MIX2 利活用の状況について
原田 慶一（九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンター）
- PA2-16 電子化時代の診療録整備
～e-文書法対応スキャンシステムの導入～
大原 達美（東京医科大学病院 情報システム室）
- PA2-17 病院の内部の生産性を評価し組織運営上の意思決定に役立つ管理会計の導入
宇都 由美子（鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 医療システム情報学）
- PA2-18 医療文書管理システムから地域医療連携システムへの文書提供機能の構築
谷川 琢海（旭川医科大学病院 経営企画部）
- PA2-19 附属病院・大学一体とした情報セキュリティマネジメント体制の構築と運用
中原 孝洋（九州歯科大学 総合教育学分野）

3 診療情報管理

- PA3-01 多職種による入院診療録の質的監査の取り組み
松原 彩加 (千葉大学医学部附属病院 企画情報部)
- PA3-02 診療記録の質の向上に向けた診療情報管理士の役割
重岡 真実 (三重大学医学部附属病院 医学・病院管理部 医療サービス課)
- PA3-03 電子カルテ導入後の質的点検について
～現状と対策～
根本 朱美 (東京医科大学病院 中央病歴室)
- PA3-04 病院経営検討会での重症度、医療・看護必要度分析を報告する取り組み
迫田 佳奈 (宮崎大学医学部附属病院 医事課)
- PA3-05 診療情報管理体制加算1取得への取り組み
池田 ゑり子 (福井大学医学部附属病院 診療情報管理部)
- PA3-06 診療情報管理士の医師負担軽減の取り組みについて
～DPC コーディング代行登録支援～
花岡 昌数 (京都大学医学部附属病院 医務課診療情報業務掛)
- PA3-07 DPC 様式1を活用した、地域別患者動態の変化の把握
～北陸新幹線開業後の影響調査～
辻岡 和孝 (富山大学附属病院 医療情報部)
- PA3-08 高知県の院内がん登録データの分析と評価
野口 真理 (高知大学医学部附属病院 診療情報管理室)

4 看護

- PA4-01 アセスメントシート変更に伴う看護師教育の取り組み
～「ゴードンの機能的健康パターン」を用いて～
小寺 利美 (滋賀医科大学医学部附属病院 看護部)
- PA4-02 蓄積した電子データの活用と課題
～使用頻度の高い看護診断ラベルの使用傾向から～
公文 孝子 (佐賀大学医学部附属病院 看護部)
- PA4-03 看護診断カンファレンステンプレートの活用の取り組み
～継続的な看護診断カンファレンス実施における成果と課題～
木村 公恵 (鳥取大学医学部附属病院 看護部)
- PA4-04 標準看護計画を基にした看護記録(看護パス)運用への取り組み
奥村 智子 (宮崎大学医学部附属病院 看護部)
- PA4-05 標準看護計画を活用した看護記録方式(看護パス)の展開
久保田 智美 (宮崎大学医学部附属病院 看護部)
- PA4-06 患者参画型看護計画推進のための取り組み
今野 玲子 (秋田大学医学部附属病院 看護部)

- PA4-07 長崎大学病院が目指す「患者参画型看護計画立案方式」の定着に向けた取り組み
中村 裕子（長崎大学病院 看護部）
- PA4-08 患者の思いを引き出すコミュニケーションを考える
～看護記録研修に体験型研修を導入して～
西口 真由美（長崎大学病院 看護部）
- PA4-09 看護ケアの標準化から考えるクリニカルパス
佐伯 純（名古屋大学医学部附属病院 3E 病棟）
- PA4-10 電子カルテの経過表活用推進による看護記録に関わるアンケート調査
高木 由里（東京医科歯科大学医学部附属病院 看護部）
- PA4-11 看護記録監査システムの構築
～看護記録の質向上に向けて～
崎花 尚美（滋賀医科大学医学部附属病院 看護部）
- PA4-12 看護記録監査を通して見えてきた看護記録の課題
～監査結果の傾向分析から今後の対策を検討する～
後田 実知子（長崎大学病院 看護部）
- PA4-13 SOAP 記録記載方法教育の取り組み
～ SOAP 事例集の作成と活用～
田邊 菜穂子（熊本大学医学部附属病院 看護部）
- PA4-14 長崎大学病院で看護師が使用する略語・造語の状況
～誰もが理解し共有できる看護記録を目指して～
松尾 理香子（長崎大学病院 看護部）
- PC4-15 モバイル端末での認証業務の改善取り組みと評価
～注射実施認証率とインシデント報告の推移～
篠原 弘枝（信州大学医学部附属病院 看護部）
- PC4-16 生体情報を携帯モバイル端末（iPad）で閲覧できるシステムの導入
山口 真由美（佐賀大学医学部附属病院 看護部）
- PC4-17 経管与薬時のバーコード照合機能開発の基礎検討
横田 慎一郎（東京大学医学部附属病院 企画情報運営部）
- PC4-18 電子カルテ時代の新たな看護業務のあり方
～多機能な携帯端末導入後の看護業務の現状から考える～
岡田 みずほ（長崎大学病院 看護部）
- PC4-19 看護師業務における携帯情報端末（PDA）の使用実態調査
片岡 典子（佐賀大学医学部附属病院 看護部）
- PC4-20 NFC 機能付き計測機器とスマートフォンを用いた記録システムの評価
小川 弘子（宮崎大学医学部附属病院 看護部）
- PC4-21 NFC 連携機器によるバイタルサイン入力の効率化
村上 由香里（山口大学医学部附属病院 看護部）

- PC4-22 離床・体動センサー使用のフローチャート作成
～離床・体動センサー使用時の看護記録から～
草場 裕（佐賀大学医学部附属病院 看護部）
- PC4-23 PNS 導入によるナースコール呼び出し回数の変化
岩田 春子（島根大学医学部附属病院）
- PC4-24 内服処方及び指示運用の取り組み
～処方オーダー、指示、実施の一連化～
木村 由美（滋賀医科大学医学部附属病院 看護部）
- PC4-25 重症度、医療・看護必要度評価の監査の取り組み
遠藤 美代子（東京大学医学部附属病院 看護部）
- PC4-26 看護業務分担支援システムの開発
山口 ひろみ（高知大学医学部附属病院 看護部）
- PC4-27 紙パスが中心の当院での評価システムの運用の一例
～患者用パス使用率の向上への取り組み～
遠藤 綾乃（東京大学医学部附属病院 看護部）
- PC4-28 当院で発生した医療情報システム障害時の実際と対応
寺阪 比呂子（浜松医科大学医学部附属病院 看護部）
- PC4-29 データ活用による超過勤務削減への取り組み
藤井 幸恵（旭川医科大学病院 看護部）
- PC4-30 育児休業復帰支援プログラムの再構築
～休業者との情報共有の場作りに向けて～
森本 聖子（徳島大学病院 看護部）
- PC4-31 育児休業者・長期休業者復帰支援スクールの効果と課題
～安心して職場復帰するために～
鳥越 絹代（長崎大学病院 看護研修センター）
- PC4-32 パパママミーティング開催と今後の展望
妹川 美智（長崎大学病院 看護部）
- PC4-33 多職種連携で取り組む人材育成（第2報）
～多職種の体験研修を通じて～
鈴木 樹美（東京大学医学部附属病院 看護部）
- PC4-34 看護への理解と関心を目指した実践報告
～看護フェスタを開催して～
倉持 江美子（東京大学医学部附属病院 看護部）

5 歯科

- PC5-01 歯科カルテ機能のベンダー変更に関する経験報告
佐藤 智昭（東北大学病院 メディカル I Tセンター）

- PC5-02 長崎大学病院における周術期口腔機能管理の取り組み
吉松 昌子 (長崎大学病院 周術期口腔管理センター)
- PC5-03 新潟大学医歯学総合病院における医科歯科連携
(新潟大学 院内連携と院外連携の現状と今後の課題～)
新美 奏恵 (新潟大学医歯学総合病院 口腔再建外科)
- PC5-04 多職種連携と歯科情報の2次利用に向けた歯科衛生士業務記録の院内標準化
里 美香 (長崎大学病院 医療技術部 歯科衛生室)

6 薬剤

- PA6-01 PDAによる注射箋監査システムの導入とアンケート調査による評価
橋詰 淳哉 (長崎大学病院 薬剤部)
- PA6-02 富山大学附属病院における持参薬処方現状
川尻 憲行 (富山大学附属病院 薬剤部)
- PA6-03 東京大学医学部附属病院での服薬指示システムの利用実態
笠井 暁史 (東京大学医学部附属病院 企画情報運営部)

7 検査

- PA7-01 中央採血室における採血待ち時間解析方法の改善
荒瀬 隆司 (広島大学病院 診療支援部)
- PA7-02 地域連携推進に必要な検査の精度保証
～熊本県臨床検査精度保証委員会の取組み～
西村 仁志 (熊本大学医学部附属病院 中央検査部)
- PA7-03 検体検査システムとバイオバンクシステムの連携
川下 隆二 (岡山大学病院 医療技術部)
- PA7-04 臨床へのパニックデータ報告管理システムの構築について
古谷 弘一 (東京医科大学病院 中央検査部)
- PA7-05 検査技師による医師業務負担軽減に対する取り組み
～長崎大学病院検査部の取組み～
古賀 寛枝 (長崎大学病院 検査部)

8 地域連携

- PB8-01 ICTを活用した小児・周産期医療高度医療人の養成
～地域と大学の連携による遠隔教育プログラム～
神林 美樹 (筑波大学附属病院 成育支援室)
- PB8-02 地域医療連携システムのコスト評価
～おしどりネットにおける標準化と経費削減の考え方と方法～
近藤 博史 (鳥取大学医学部附属病院 医療情報部)

- PB8-03 患者中心の医療を推進する情報システム SHACHI
藤田 伸輔 (千葉大学予防医学センター)
- PB8-04 地域医療構想に係る自主的な協議の場の設置と地域連携の推進
小川 真司 (千葉大学医学部附属病院 地域医療連携部)
- PB8-05 地方厚生局で公開されている病院施設基準 (医科) を加工しエクセルファイルにて無償提供する試み
野口 大輔 (浜松医科大学 医事課)
- PB8-06 地域包括ケアにおけるコールセンターの役割
山野辺 裕二 (社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 法人本部 情報部)
- PB8-07 大学病院における一般外来縮小へ向けた要因分析
岩穴口 孝 (鹿児島大学病院 医療情報部)
- PB8-08 地域に向けた医療専門チームによる看護実践研修事業の実際
千谷 真由三 (高知大学医学部附属病院 地域医療連携室)
- PB8-09 がん相談支援センターの有効利用への取り組み
～がん患者相談支援の体制整備について～
平野 香純 (筑波大学附属病院 がん相談支援センター)

9 臨床研究・治験

- PA9-01 広域ネットワーク型臨床研究データ管理システムの運用報告
若田 好史 (九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンター)
- PA9-02 医師主導臨床研究での Visit Reminding System (VRS) の有用性
萩村 一人 (慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター)
- PA9-03 救急外来に訪れた治験実施中患者の把握方法の改善とその問題点の抽出
救急外来での初期対応における治験患者の把握
草野 芳枝 (旭川医科大学病院 臨床研究支援センター)